

自立した持続可能な地域社会創造事業「地域づくりセミナーin十日町」

2019年11月14日～15日／会場：ラポート十日町、他

十日町市で開催した今年の「地域づくりセミナー」の講師は、著書「100万円の家を買い、週3日働く」で全国の離島や中山間地域・郊外などの人口減少地域のまちづくりを取材された三浦展氏をお招きしました。56名の参加者から積極的な質疑応答が交わされました。

翌日の現地視察は、小千谷市の「岩沢アチコタネーゼ」と「わかとち未来会議」の活動現場にお邪魔しました。

目次:

11月14日(木)13:00～

挨拶

(一財)新潟ろうきん福祉財団
十日町市企画政策課長

成果報告会「地域社会創造助成事業
助成団体」

- ①だんだん～も只見線沿線
元気会議
- ②結トピア貝塚
- ③(特非)福井旧庄屋佐藤家保存会
- ④須原コミュニティ協議会
(現:元気すもんプロジェクト
チーム)

研修会

講師 三浦 展 氏
(カルチャースタディーズ研究所
代表取締役)

交流会

乾杯挨拶

金子 洋二 本助成選考委員長

閉会挨拶

桑原 幸子 本助成選考副委員長

11月15日(金)9:00～14:00

- ①岩沢アチコタネーゼ
- ②わかとち未来会議

挨拶



主催挨拶として、江花理事長は、本セミナーは、助成事業の成果報告もかね、これまでに7か所の地域で開催しているという特徴を説明。今後も地域の協力を得ながら実施していきたいと述べました。

研修会

80万部のベストセラー『下流社会』や『第四の消費』など多数の著書がある三浦展さん。その中でも『100万円の家を買い、週3日働く』では全国の離島や中山間地域・郊外などの人口減少地域のまちづくりを取材されてきました。

その中でも、東京の中にも過疎地はあり、女性ほど都市部に住む現状や働きやすい街は人口が増えている事例を数字データで説明されました。

これからの日本は、「中高年のおひとりさま」が増加していくため、家族以外でも助けあえるコミュニティがさらに必要になると述べられました。それを証明するかのよう
にこの7年で、シェアハウスは10倍となり、様々なシェア型まちづくりが全国でひろがってきました。

講演後、参加者からの質疑応答



地元十日町市より、企画政策課渡辺課長から「まちづくり基本条例」制定から市民交流センター「分じろう」「十じろう」の開設など様々な取り組みと歓迎の挨拶をいただきました。

では「不便なもの、ことを体験させない、できない地方暮らしはいかがなものか」「新しい人材を呼び込むためにどのような工夫が必要か」「地方に来てもらうため首都圏にいるどのような人たちにアプローチしていけばよいのか」「移住し、活動が広がっていくために何に気を付けたらいいのか」といった実践者ならではの悩みや質問に、事例などをもとにして、三浦さんから回答をしていただきました。



2018年度地域社会創造助成事業 成果報告会

地域社会創造助成事業に関する助成団体名、金額、事業内容はすべて「ろうきん財団」ウェブサイトから公開されています。

2018年度採択5団体のうち、1団体が辞退したことから、今回は4団体から成果報告を行っていただきました。

◆だんだん～も只見線沿線元気会議

魚沼市で、只見線周辺エリアの観光魅力向上に取り組んでいます。2017年、2018年と二か年、本助成金を採択され、本年度は「只見線ビューポイントマップ」と「魚沼ガイドマップ」を作成。また、雪灯ろう事業とツアー検検証事業、絵画コンクールの催事を実施。魚沼だけでなく隣福島県との広域連携による事業展開に今後も繋げていきたいと抱負を語りました。

◆結トピア貝塚

新発田市貝塚集落にて竹林整備を通じ、「竹パウダー」の販売等により収益の可能性を探りたいと本助成金で竹粉碎機を購入しました。地域住民による景観美化の活動につながり、竹パウダーからタケノコ販売に取り組みましたが、収益化までには至っていないという課題がありました。

◆(特非)福井旧庄屋佐藤家保存会

新潟市西蒲区に江戸後期(築250年)に建築されたかやぶき古民家を保存しながら、地域活性化に取り組んでいます。水回りの工事と地域学習会、パンフレット整備を行い、これまでにはなかった地域とのつながりが報告されました。

◆須原コミュニティ協議会

魚沼市守門地域にて遊休施設を活用し、地域の交流の場・直売所「元気すもん」を開設するためのハード整備を本助成金で行いました。地域住民の農産物や民芸品を販売することで出荷する人の生きがいがいづくりにつながるなど、福祉施設や商工会、飲食店、民宿との共同事業を通じた展開も広がっていることが報告されました。

現地視察

小千谷市内でこれまでに本助成を採択されたうちの2団体の取り組みを27名が視察しました。

まずは、2015年、2016年、2017年、本助成金を活用した「岩沢アチコタネーゼ」が取り組む農家民宿「へんどん」を訪問しました。同団体の代表である関口さんの実家を改装し、地元お母さんたちから食事作りなどを協力してもらっています。同団体の駒井副代表、支援員の石曾根さん、食事を担当されている地元の方から運営面の様々なお話を伺いました。

次に、10分ほど車で移動し、同団体が運営する多目的ホール「アチ倉ホール」では、冬季間の除雪スタッフの待機場所として活用されているが、年間を通じた利活用にはつながっておらず、今後の課題とのことです。

また、隣接する農家レストラン「山紫」は、地元唯一の飲食店ということから好評ではあるが、厳しい収支であることやスタッフの高齢化などが説明されました。

次に、車で15分ほど山道を移動し、2013年、2014年、2015年と本助成金を活用した「わかとち未来会議」が運営する農家民宿「おっこの木」で、手作り昼食をいただきながら代表の細金さんより活動の話を伺いました。

続いて、廃校を利活用した「漬物工場」を見学し、産業創出と雇用の確保に取り組む実践的なお話を伺いました。

どの訪問先でも、参加者からは積極的な質疑応答がなされ、今後の事業に気づきと学びがあった様子でした。



(一財)新潟ろうきん福祉財団

新潟市中央区新光町6番地2

勤労福祉会館4階

電話: 025-288-5273

FAX: 025-288-5274

電子メール: info@zaidan-hukushi.or.jp